

第二回 5月18日(水)： 英国

- 国境のない仕事と国境 “イマジン”
- 最前線と後方支援
- 北緯50度のネットアイ

受講者の声：

一盛先生がロンドン衛生熱帯医学大学院での話をされた際に「何をするためにここに来たのか」を常に考えていたと話された。当時一緒のアパートに住んでいた友人から「部屋で死んでいるのでは？」と心配されるくらい研究室に籠り実験を繰り返す日々だったという。私の半年ばかりの生活を振り返ると、本気で公衆衛生を学ぶという意欲が残念ながら足りていなかったと思う。今回の先生の話聞いて、もう一度「何をしたい／するために長崎大学大学院に来たのか」を思い出し、真摯に自分の関心のある分野と向き合っていこうと思えた。